

「河内長野市総合計画審議会 第2部会（第3回）」会議録

日時：平成26年12月26日（金）

午後6時30分から

場所：市役所3階301会議室

出席委員12名

- | | |
|------------|--------------------|
| 1号委員 | 木ノ本寛、中林圭見 |
| 2号委員（各種団体） | 上野修二、生地孝至、奥野豊、増田勝紀 |
| 2号委員（公募） | 幸山善信、渋谷修、森脇稔 |
| 3号委員 | 加藤司、嘉名光市 |
| 4号委員 | 松井芳和 |

欠席委員2名

- | | |
|------------|------|
| 2号委員（各種団体） | 吉年正守 |
| 3号委員 | 加我宏之 |

事務局

- 総合政策部長：辻野
総合政策部副理事兼政策企画課長：小林
政策企画課参事：島田
政策企画課課長補佐：緒方
政策企画課主幹：谷ノ上
政策企画課主幹：尾西

ジャパンインターナショナル総合研究所

伊藤研究員

【辻野部長】

皆さん、こんばんは。河内長野市総合計画審議会第2部会を開催します。年末のお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。本日は3回目の部会で、検討も後半戦になります。本日の議論は、基本構想の第5章、第6章の検討で、第2部会特有のテーマでの検討をお願いします。

総合計画審議会条例第6条第2項において、審議会は委員半数の出席で成立することとなっておりますが、14名の委員のうち、ただ今、10名のご出席をいただいておりますので、審議会が成立していることをご報告いたします。それでは、加藤部会長に議事の進行をお願いします。

【加藤部会長】

今年を締めくくる会議になりますので、ご協力をよろしくお願いします。今回のメインは第5章、第6章ですが、前の章についても事務局から説明があります。

【緒方補佐】

資料は、会議次第、事前送付の冊子（基本構想骨子案）、前回の審議会でご意見を頂いたものの対応表です。冊子の18ページ、「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」で、「急速に昭和40年代に開発された住宅団地を多く抱える」というのが河内長野市固有の大きな課題・特徴ではないかということで、追加しています。「3. 安全で安心なまちづくり」で、「大きな災害に遭遇していない」という表現はどうかという意見がありましたので、「地域主体による自主防災組織の活動など、災害対策への意識が高まっています」という前向きな表現に変えています。19ページの「5. 地域の連携による産業の振興」については、「6次産業化」を追加しましたが、他の部会で、「6次産業化」という言葉の説明をしたほうがいいのではないかという意見があり、注釈を付けたいと思います。広域連携では、行政だけではなく民間での広域連携もあるという意見がありました。特徴的な部分として、このような産業の分野での広域連携が分かりやすいので追加してはどうかという意見がありましたので、ここに入れていきます。また、女性の活躍を応援する企業についての支援という意見がありましたので、「多様な人材の活用に対する企業への支援」を加えています。20ページの「8. 市民主体のまちづくり」で、自治会等地域の活動について「希薄化が予想され」という表現でしたが、一方では活発な活動をしている所もあるという意見があり、「懸念され」という柔らかい表現に変えました。また、「特に若い世代を含め、誰もが」という表現は、子育てをしない女性や独身の女性もいるので、子育て中の女性だけではないという表現で地域社会に参加していただきたいという趣旨で加えました。「10. 健全で効率的な行政運営と広域連携の推進」は、「自立した行政運営」という表現でしたが、何かからの自立かという意見がありましたので「健全で効率的な」に変えました。

河内長野市の今後目指すべき姿として、「成熟」という表現はどうかという意見が、審議会、学識経験者の中でも出て、全体にまたがる大きなところに入れたいということで、21ページの「まちづくりの基本理念」に追加させていただきました。23ページの「1. 定住人口」で、なぜ10万人なのかという説明の文章として、「これまでに整備してきたインフラの有効活用や、高次な都市機能を維持するための一定の基準として」を加えています。人口が多いときに整備されたインフラを有効に活用しなければいけないということと、「高次な都市機能」は人口規模に合った都市機能があるということで10万人を基準として想定しているという表現を入れました。また、「目標人口」という表現をしていましたが、下がっていく人口が目標というのは違和感があるということで、「想定」という表現にしました。24ページの「1. 将来の都市空間づくりの方向性」に、危機感を持って課題も書き入れたほうがいいのかということで、道路や公共交通の充実、地域コミュニティの活性化、買い物支援などの対応を書かせていただきました。「2. 河内長野市におけるコンパクトシティのあり方」の中ほどで、「拠点」に機能を集積していくと、周りの「生活圏」が取り残されていくイメージがあるという意見がありましたので、「市民が生活を営むために不可欠な機能の確保を図りながら」という言葉で、切り捨てるというイメージではないという文章を入れていきます。「3. 都市空間づくりの目標」の（1）は、文章を組み替えました。「（2）安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」で、安全・安心面では山の管理も重要な課題だということで「治山・治水」という表現を加えまし

た。「(3) 地域の活力を創出する」で、森林や農地は、生産の場だけではなく、観光の側面でも活用してはどうかということで、「市民の憩いの場としての有効活用」という表現をしています。ここまでが主な修正点についての説明です。

第5章、第6章は、今回、新たに検討いただくところです。第2部会では、「I：まちづくりの方向」の「基本目標3 潤い・快適・活力のにぎわいのまち」で、1つ目が「自然と調和する環境づくりの推進」、2つ目が「生活利便性を高める都市基盤の整備」、3つ目が、「にぎわいと活力を創造する地域経済・産業の振興」をメインにご検討いただきます。全部会共通で「基本政策11 まちのイメージアップと効果的な発信」も念頭に置いていただければと思います。29ページは第2部会固有の施策で、「基本政策8 自然と調和する環境づくりの推進」ということで書いています。最終的に文章として表現するにあたって、重要な視点、外せない視点を「事例」という形で並べていますので足りない視点がないか、ご確認いただきたいと思います。環境については、自然環境の保全、景観づくり。公園や身近な緑の適切な維持・管理、環境美化の推進。ごみの減量化、自然エネルギーの利活用による循環型社会の実現。地球温暖化対策や公害防止など、環境にやさしいライフスタイルや事業活動の浸透という事例を書いています。「基本政策9 生活利便性を高める都市基盤の整備」は、中心市街地の活性化、都市機能の集積を図る計画的な整備、美しい都市景観の形成。住宅環境の向上、空き家・空き地対策。広域道路網と市内道路網の充実。都市基盤の長寿命化や適切な維持・更新。公共交通の維持・発展、空白地域、不便地域への対応。周辺環境等にも配慮した墓地・斎場の整備を挙げています。「基本政策10 にぎわいと活力を創造する地域経済・産業の振興」では、農林業・商工業・観光業の活性化、業種間の連携による6次産業化。農林産品の地産地消やブランド化などの農林業の振興。商工業支援。観光魅力の向上、観光消費の活性化による観光産業の推進。雇用・就労環境の整備促進。職住近接による雇用や働く場の確保のための企業誘致の推進、起業促進を書いています。横断的部分としては、「基本政策11 まちのイメージアップと効果的な発信」で、都市ブランド化やシティプロモーションの展開を挙げています。31ページの第6章も箇条書きになっていますが、最終的には文章でお示しいたします。1つ目は、庁内の体制として、部署の責任の明確化。分野横断的な施策の各部署間の連携。定期的な組織のあり方の検証・再編成。2つ目は、地域別計画もありますので、協働の体制を整えていこうということ。広域連携の話もありますので、国や大阪府、近隣市町村との連携の体制を整えていくということ。「第2節 進行管理のしくみ」として、アンケート調査等で市民意識を把握していこうということ。成果指標を充実して、それを活用した進行管理をしていくことで、行政評価を充実させていこうということ。外部評価は、市が内部評価をした部分について、外部の観点で評価をしていくものです。PDCAサイクルに基づいて、効率的で効果的な行政経営を進めていくということ。基本政策については、前期5年分の評価をして、見直しをする作業が必要で、このタイミングで外部評価を入れていきたいと考えています。「第3節 予算・財政計画との連動」では、計画を絵に描いた餅にしないために、施策の選択と集中。財政収支計画との連動が重要になるので、予算との連動も考えなければいけないということを書いています。説明は以上です。

【加藤部会長】

第4章までの修正箇所について、ご意見はありますか。

【木ノ本委員】

20 ページに、「9. 協働による新たな公共の構築」と書いてありますが、「新たな公共」はどういう意味で書かれたのですか。

【緒方補佐】

もともと9番と10番は同じくりでした。まず、行政運営をするにあたって、行政と市民が公共についての役割を考えていきたいと思いますということでしたが、「協働」については行政の都合だけではないというイメージがありますので、切り離れたほうが良いというところで、9番の項目ができましたが、「8. 市民主体のまちづくり」で市民のボトムアップでやっている部分とは違うということで、8、9、10の章立てになりました。

【木ノ本委員】

そういうことではなくて、「新しい公共」は、鳩山内閣の時に言われたものなので、もうしぼんでいると思います。行政だけではなく、民間も巻き込んだ形でやらなければいけないということで、多様な視点が重要だと思います。「新しい公共」という言葉が一人歩きして、無責任に言葉ばかりが並んでいる気がするので、別の表現の仕方はないでしょうか。

【加藤部会長】

言葉についてはそれぞれの方がイメージすることがあると思いますが、「新たな公共」は、アカデミックな世界では多用されています。

【木ノ本委員】

言葉ばかりが先走っている感じで、不愉快に感じています。

【幸山委員】

2行目の「これまでの公共」に対応して「新たな公共」という言葉があるので、「これまでの公共」と「新たな公共」の関係性を重視したほうが良いと思います。

【木ノ本委員】

「多様な視点」や「新たな公共」は、最近、はやっていますが、現実としてどうなのか、疑問を持っています。

【加藤部会長】

この言葉が一般的にどう理解されているかということがあります。事務局は、お互いに担ってやっていくという意味で使っていると思いますが、本来、行政がやるべきことを市民に丸投げするというニュアンスがあって、誤解を生むようであれば、もう少し説明してもらおうということでご理解いただきたいと思います。よろしいですか。

【木ノ本委員】

部会長が言われたような説明をしていただけるとありがたいと思います。「新たな公共」が多用されているのは確かですが、実際、具体的にどういう事例があるのか分かりません。

【加藤部会長】

今回の計画の中で、新たな公共にふさわしい実際の施策や取り組みをどう盛り込むかを考えていただきます。議論の中で、新たな公共にふさわしい施策をご提案いただいて、誤解を招くようであれば、事務局に言葉を付け加えていただきたいと思います。

【木ノ本委員】

私は、「新たな公共」という言葉は、抜いてほしいと思います。

【加藤部会長】

方向は同じような言葉ですが、実際はその言葉にかまけてやっていないのではないかということですね。

【渋谷委員】

ベスト・パートナーズ・ワーキング・システムを日本語にしたら、協働になります。「一緒にやるシステムを組みましょう」というのは、これからの協働のやり方だと思います。

【木ノ本委員】

無理に日本語にしているので、誤解を招くのではないかと思います。

【加藤部会長】

「新たな公共」という言葉は、市民権を得ていますので、本来の趣旨が伝わるようにします。もしくは、それにふさわしい中身のある計画にします。

【木ノ本委員】

24 ページの下に、「森林や農地を生産の場や市民の憩いの場として」とありますが、自然の中での営みを体験的に学習の場として活用してほしいと思いますので、「体験学習の場」などを入れていただきたいと思います。

【加藤部会長】

同感です。今日のメインの第5章、第6章について、ご意見を伺います。まず、第5章について、ご意見、ご質問をお願いします。

【渋谷委員】

第5章の「基本目標2」に入るとと思いますが、親が子どもを虐待するということが書かれていな

いと思います。河内長野市でも、人間失格みたいな両親の元で、貴重な宝である子どもが殺されていく根はあると思いますので、文言で押さえておく必要があると思います。

【嘉名副部長】

今の趣旨は、「基本政策4 子どもが健やかに育つ環境の整備」のところだと思いますが、別の部会がメインなので、その部会で採用されないかもしれないかもしれませんが言っていただいて構いません。

【加藤部長】

いろいろなところに入る可能性はあると思います。

【嘉名副部長】

事例は、事務局が例示的に書いているので、「基本政策4」か「基本政策7」のどちらかになると思います。

【渋谷委員】

虐待については、提言として残しておくべきだと思います。

【加藤部長】

事務局、その点は他の部会にも伝えていただくということによろしいですか。

【嘉名副部長】

セーフティーネットのような感じもするので、「基本政策2」とも絡むのではないかと思います。

【小林課長】

どこに含むか検討します。

【渋谷委員】

児童相談所がプライベートな問題に突っ込んでいけずに逃げているという今の時代の風潮がありますが、人間失格みたいな親から子どもを引き離すという形を取らないと、死んでしまっただけで子どもという宝が無くなってしまいます。人口減少で子どもが少なくなっているにもかかわらず、目を覆うような現状になりかねないという危機感があります。

【中林委員】

昔は姥捨山が問題でしたが、今は、宝である子どもを殺すのです。市役所も教育立市をやっておられるでしょうが、いろいろと不祥事も出て、市役所の教育を忘れたのかということも出てきましたので、そういうものも書き入れていただきたいと思います。

【加藤部長】

子どもは、我々の担当の基本目標とも深く関わっていますので、その辺のご意見も頂きたいと思

います。先ほどの「自然や森を生かす」では、最近アドベンチャーといいますが。

【木ノ本委員】

河内長野だけでなく大阪府民の体験学習道場として、自然や森を活用しない手はないと思います。家族と一緒に自然体験をすることで、横道に走る子はいなくなると思いますので、野菜や果物を作ることなどを河内長野市の特色としてやるべきだと思います。

【上野委員】

新聞に載っていましたが、夏休みに使われていない田舎の家に来ていただいて、森林や畑の体験をやっている自治体もあるそうです。昔からおじいちゃん、おばあちゃんと住んでいる子どもは、すくすくと育っているので、家族だけではなく、集団で体験ができたらいいと思います。

【加藤部会長】

事務局、今の話は基本政策のどこに入りますか。

【小林課長】

「基本政策5」に「ふるさとへの愛着や誇りの醸成」と書いてありますが、前の部会では、ここで、豊かな人間性の育成というニュアンスは大事だろうという意見を頂いています。今おっしゃった部分はそれに絡んでくるので、「基本政策5」辺りで考えたいと思います。

【嘉名副部会長】

今の話は、河内長野らしいポイントになるので、ぜひ盛り込んでいただきたいと思います。

【木ノ本委員】

総花的に自然や緑と言うだけでなく、具体的にどうするかが重要です。

【嘉名副部会長】

「基本目標2」にそういうエッセンスが入ったらいいと思います。また、市の外にもアピールするというのもあるので、「基本政策11」は「イメージアップと効果的な発信」よりも、もっと幅広く捉えられる言い方をしたほうがいいと思います。

【木ノ本委員】

それを実現するために誰が仲介するのかという形になってくるので、手段ばかりを議論するのではなく、目的を議論したほうがいいと思います。

【嘉名副部会長】

今、示された部分は、教育の分野と自然を活用した産業の活性化の分野の両面で入れたいと思います。

【木ノ本委員】

そういう角度から切り込むと、6次産業になり得ると思います。

【小林課長】

「地域資源を活用した産業の活性化」として入れさせていただきます。

【上野委員】

他の市町村から来て体験していただくことによって、よかったらそこへ住んでいただくことにもなるので、わずかですが人口減少の歯止めになるかもしれません。

【中林委員】

「ふるさと農道」を早く作って活用し、農道でありながら土日にはサイクリング道路にする方法もあるという話をしました。市だけでやるのは無理なので、民間の力を貸してもらえるような言葉を入れていただきたいと思います。

【松井委員】

河内長野市は、自然環境やアウトドアスポーツに力を入れていますし、モンベルと組んだりもしていますので、自然資源、農業、アウトドア、歴史文化などの地域資源を、にぎわいや市民のプライドにつなげることをアピールすることを「基本施策 10」や「基本施策 11」に、具体的に書いたほうが、河内長野市らしくていいと思います。

【加藤部会長】

過去にやっていることですが、公募で南河内の正倉院の歴史を勉強して、かなりの人が卒業していますので、観光ボランティアガイドなどの人的資源など、書き込むことはたくさんあると思います。

【木ノ本委員】

「基本施策 10」の産業の部分に、産業基盤の整備が書かれていませんが、ここは、河内長野で一番遅れていて、弱い部分だと思います。工場や今ある企業が建て替えたいと言っていますが、いまだに土地の確保ができていません。来ていただくことよりも、今ある企業がよそへ出ないようにしなければいけないと思います。やろうとはしていますが、その辺が反映されていないと思いますし、河内長野市の一番の弱みは産業振興なので、全体のバランスから見ても足りないと思います。

【加藤部会長】

我々が議論をしていく上で、何をどこまでやってどこが足りないかという情報はあったのでしょうか。

【小林課長】

昨年、産業振興ビジョンを作りましたが、今言われたように、産業振興の部分が弱かったからです。今年度はアクションプランを作って展開していこうという状況です。産業基盤のところに入っていますので、それも踏まえて表現したいと思います。

【木ノ本委員】

産業振興ビジョンを作って、それを具現化するためにこれに反映するという形だったのですが、その辺はどうですか。

【小林課長】

今、並行してアクションプランを作っています。

【木ノ本委員】

あの産業振興ビジョンそのものも、我々の思惑とは懸け離れています。

【小林課長】

具体性の部分が見えないところはあります。

【木ノ本委員】

もともと柱がないのです。厳しいことばかり言うようですが、もう「ごっこ」をしている場合ではないと思います。

【加藤部会長】

皆さんは河内長野でどんな施策を展開していくのかご存じかもしれませんが、私はあまり知らないで、情報がない中では案を出しにくいので、情報共有できるものは出していただいたほうがいいと思います。

【木ノ本委員】

まちづくりビジョンや産業振興ビジョンなどがあります。

【加藤部会長】

空き家をうまく活用して市外の方に来ていただき、教育を含めた体験をしていただいて、移住につなげるという話がありましたが、空き家・空き地対策は、どんなことを考えられていますか。

【小林課長】

空き家・空き地対策は、空き家にならないための施策と空き家になった場合の対応の両面で考えています。先日、空き家対策特別措置法が制定されて、2月に施行されると聞いていますので、危険家屋の立ち入りも可能になりますので対応していきたいと思います。活用の部分では他市の状況

を見ながら考えたいと思います。

【加藤部会長】

改装の支援や補助金はお金のかかる問題なので、その辺も含めて議論しなければいけないと思います。

【小林課長】

自治会も含めて、地域の実態を踏まえながら、どう活用していけるのかを検討していきたいと思っています。

【嘉名副部会長】

議員立法や横浜市が「横浜みどり税」を作ったように、方法はいろいろあります。書きぶりはこれくらいでいいと思いますが、「基本政策9」は、「都市基盤の整備」となっていて、新しく造ることだけになってしまうので、マネジメントの視点を入れて、「都市づくりとマネジメント」のほうがいいと思います。河内長野市は都市基盤の整備が遅れているので、それはしっかり入れればいいと思います。

【木ノ本委員】

目的を持って都市基盤の整備をしないと進まないと思います。

【中林委員】

都市基盤としては、駅前には空き地が多くなりましたし、千代田の駅の東側は、空き地はあるけれどもいつまでも田んぼや畑で容積率の多いところをさわらずにきているところがあるので、市も考えてほしいと思います。計画が最後までやられていないところが多いのではないかという話がありまして、「新たな」と言っていますが、古いものをやり残したところがあると思います。

【嘉名副部会長】

今の話は「基本政策9」のボツの1つ目の「中心市街地の活性化、都市機能の集積を図る計画的な整備」ですが、前半で「拠点」という言葉を使っていますので、「基本政策9」にも「拠点」というキーワードを入れて、ここをしっかりとやっていくのだという打ち出しを明確にしたほうがいいと思います。

【中林委員】

小さな町でも人口が増えている所もありますので、横ばいで行くという気持ちで書き出しをしてほしいと思います。

【小林課長】

木ノ本委員が言われたことは、産業振興ビジョンの最後のページの6番辺りになると思います。

【木ノ本委員】

人口減少と言われていますが、若い世代の働く場は大きな問題で、大きな企業でなくても小さな企業は大事だと思います。

【中林委員】

企業に来ていただく段取りは、どちらが先かという議論も出てきます。

【木ノ本委員】

それは、明確なまちづくりビジョンを示せていないからだと思います。

【中林委員】

そのとおりですが、あるものを活用したほうがいいと思います。

【上野委員】

河内長野市で作っていただいているのですが、具体的にどうするかというものはまだできていませんし、9月に滝畑で朝ドラのマッサンの撮影がありましたが、私も聞いていませんし、地元の小学生に「撮影を見に行きましょう」という声もないのが残念でした。

【加藤部会長】

その辺は、体制づくりにも関係あると思います。私の知る限りでは、例えば、酒の西條さんは、行政と組んで、観月会やホテルの鑑賞会をやっています。それを個人ではなく体制としてやるとか、どこまで徹底してやれるかという話だと思います。

【上野委員】

町内会もホテルを確保するのに苦労しています。

【木ノ本委員】

「観光」と書いてありますが、小さなイベントが多すぎると思いますので、取捨選択して、もっと効果的に、大阪や日本中に発信するくらい大きなものを作ってめりはりを付けてはどうでしょうか。市や観光協会の職員も、毎回駆り出されて大変な割には効果がないと思います。

【加藤部会長】

今のところは「基本政策 11 まちのイメージアップと効果的な発信」で、散発的にそれぞれの部署でやっているものをトータルで把握して管理していくような体制でないといけないというご意見です。

【幸山委員】

「都市ブランド化」と書いてありますが、例えば、河内長野を大阪の中でブランド化するのか、関西の中でなのか、全国的になのか、どの程度にしたいのかが伝わってきません。

【嘉名副部長】

市民向けのシビックプライドみたいな話もありますし、外に発信できる河内長野であるためには、細かいことでは市民にしか届かないということです。

【木ノ本委員】

全て祭りになってしまって、中で「ごっこ」をやっているのでは意味がないと思います。

【嘉名副部長】

「外に向けて」を強調されてもいいと思います。

【小林課長】

都市魅力戦略課を中心に、来年度、市のブランドとはどういうものか、市民の方と一緒に作って、効率的に、効果的に発信していきたいと思います。

【加藤部長】

大阪府内で都市ブランド化をやっている都市魅力戦略課は他にもありますか。

【嘉名副部長】

大阪府や姫路がやっています。

【加藤部長】

その辺の情報共有がないと市の行政をさらに1歩行くような提案がしづらいので、情報共有したいと思います。私が関わっている地元の産品、特に地元の農産物をプロモーションする場合には、外に出て行ったり、展示会をやりますが、ほとんど効果がありません。また、地元の人もほとんど知らないなので、その辺をバランス良くやらないといけないと思います。

【増田委員】

私もジャムの店をやっていますが、なかなか売れなくて、なじみのお客さんを中心に少しずつ進めています。

【上野委員】

柿もブドウも桃も、河内長野は有名ではないので、取りあえず作ったものをジャムにしたり、形を変えて販売をしています。その販売も、観光協会がお金を出して、専門家に誘導してもらっていますが、なかなか売れません。

【加藤部長】

増田さんのジャムは、人気で、すぐに売り切れますので、売り切れないようにもっとたくさん作ってほしいと思います。

【木ノ本委員】

材料が足りないとのこと。

【上野委員】

年中あるわけではないでしょう。

【増田委員】

季節の産品を使って加工するというのをベースでやっていますので、年中やるのは難しいです。

【中林委員】

小山田の梨と桃は評判がいいのでブランド化していますが、本当に少量なので効果がありません。

【木ノ本委員】

数日前に、和泉市がミカンのペースト化に成功して、ケーキやパンに使える形になったそうです。「これだ」というものを創り出さなければいけないと思います。

【上野委員】

いろいろなイベントを通じて販売をして、買っていただいていますので、何年かかって有名になるかは分かりません。

【加藤部会長】

いろいろな試みをされているので、全体としてどうマネジメントして売り出していくかという段階に来ていると思います。

【嘉名副部会長】

もう少し固有名詞があったほうが良いと思います。「基本施策 11」で「奥河内」や「高野街道」という言葉を使うのは、バランス的に難しいのでしょうか。

【小林課長】

そこは検討させていただきたいと思います。

【嘉名副部会長】

あそこは載っているのにうちは載っていないという話も確かにありそうですが、これからこれで売っていきこうというのは、打ち出していったほうが良いと思います。

【中林委員】

郷土芸能であれば、だんじりよりも歴史のある獅子舞が良いと思います。

【小林課長】

今言われたキーワードというのは、「基本政策 10」の中に入れるということですか。

【嘉名副部長】

全般的にです。特に「基本目標 3」や「基本施策 11」はローカルなテーマで差別化しやすいと思いますし、「基本目標 2」も、固有名詞や「自然を生かした教育」など、河内長野だから出てくるものが入るといいと思います。

【小林課長】

「基本施策 11」は、そういうことを仕組みとして定義してもらうところです。

【木ノ本委員】

山、田んぼや川などを活用するために、体や精神を鍛えることで若い世代を呼び込んで、ふるさと意識を持ってもらうシステムを作ってやっていると、他の産業もついてくるのではないかと思いますので、何かリードするものをつくったほうがいいと思います。

【加藤部長】

「企業誘致推進ための条件整備」とありますが、この時代に河内長野には無理ではないかと思えますし、仮に商業施設が来たとする、ここで言う駅周辺の拠点とは対立する問題ですから、本当は、そこをどうするかも書き込まなければいけません。いろいろやると書く分には問題ありませんが、具体的に企業誘致したり、大規模な商業施設を誘致するという場合はそういう問題が出てくるので、そのときに市としてどういう方向で行くのかということだと思えます。

【小林課長】

当然、地元への配慮も必要になりますし、河内長野市は企業誘致のためのまとまった土地はないので、民間中心に開発する必要があります。確かに難しい面はありますが、来ていただくために、優先的な支援も含めて検討したいと思えます。大きい企業だけではなく、小さくても地域に根付いていただける企業に入ってもらえるように努力することが必要だと思えます。

【生地委員】

最初の会議であった「全体をやっていきたくらいから全部できないということになるので、特化した部分をつくらなければいけない」ということをこの中に盛り込めるかどうか難しいところだと思えます。みんなに良い文言を書いてしまうと何もできないので、福祉を切り捨てて道路を造るとか、道路をやめて福祉を造るとかを決めるということ、この場でできるのかが1つあると思えます。

【中林委員】

「できれば良い事業でも、人によっては夢として受け取り、夢では食べてはいけないという意見もあり実行しにくい」と言われていたので、やはり絞るべきだと思えます。

【生地委員】

それをこの会議でできるのかということです。この中にはありませんが、おじいちゃんやおばあちゃんがいるところには健全な子どもが育つということがあるので、河内長野はお年寄りが多いのでそれを生かすという意味で、3世代住宅の推進・減免を提案します。

【中林委員】

そのとおりです。あるおじいさんが、終戦後に子どもの遊び場だった所が空き地になって、どうしようもない所に子どもの遊具が置いてあるのは無駄だという話をされていました。お年寄りをもっと活用すればいいと思いますし、子育ての施策をはっきり書くと、若い人も来られると思います。

【森脇委員】

公共事業を捨てて福祉を充実させたり、福祉を切り捨てて公共事業をやるという話はありません。両方やっつけていかなければいけないと思いますので、極端な話はしないほうがいいと思います。

【加藤部会長】

実際には、選択と集中は難しいところがあると思いますが、めりはりを付けて、河内長野市はここに重点を置いているという対外的な見せ方もあると思います。

【森脇委員】

産業技術の拠点を整備していこうということと、周辺に散らばる田舎的な家を田舎として切り捨てるのもあり得ない話で、住んでいる人の立場から考えたら、住みやすい地域にしてほしいという要望はあると思います。例えば、滝畑のような不便なところによく住んでいるなと思いますが、これを切り捨てるということはありません。だから、地域としてできるだけ支援をして、活性化をしていかなければいけないということだと思います。

【加藤部会長】

おっしゃるとおりですけど、観光地みたいな形や体験型で行くなど、滝畑の生きる道は幾つかあると思います。

【森脇委員】

滝畑は、夏と連休の土日は日帰りでバーベキューをする人が多いのですが、平日や冬はほとんど人が来ませんので、平日のお客さんの誘致をどこでどのように考えていくかということだと思います。

【木ノ本委員】

河内長野は5つの地区があって異なった顔を持っているので、特色を出して、それをどう生かしていくかということです。

【森脇委員】

天見は、昔から天見温泉があつて旅館もたくさんありましたが、今は南天苑だけになりました。交通の便利な所でバイパスもできてきているので、市で、天見の観光資源を開発して、何とか活性化できないかと思います。

【木ノ本委員】

以前からそういう話はあるが、開発できるように調整区域を外したらどうだという話もありましたが、ハードルが高くて、営業的な建物が建てられません。千早口の所に市が買い取った土地があるのですが、調整区域なので、ものを売ったりコーヒーを飲んでもらうことはできないのです。

【上野委員】

そこは、十数年前に観光協会と地元の方で、さくらまつりをしようということで打ち合わせに行きましたが、雨でやめて、翌年からもそのままになってしまいました。

【木ノ本委員】

観光案内所は地元の方に尽力いただけていますが、あと1歩進んでいません。市だけでなく、国の施策の特区という形の中で、地域創生のいろいろなメニューがありますので、活用して、インパクトのあるものにしたいと思います。

【上野委員】

人を集めて何かをしようと思ったら、まずトイレが必要だと思います。

【木ノ本委員】

観光トイレは、新たな設置は難しいので民間のトイレをお借りしていますが、年間の補助金が少なくて協力者が集まりにくいのです。

【松井委員】

情報提供ですが、明日、経済対策が閣議決定される予定で、全国に4,200億円の交付金が配られる予定です。地方創生の中に観光振興が入っているので、全市町村に配られると思いますので使っていただくのがいいと思います。今回作られる総合計画は、地方創生戦略をどう絡めていくかです。

【小林課長】

人口減少対策が主ですか。

【松井委員】

人口減少対策というより地方創生ということで、観光振興や地域活性化のメニューを入れる形になると思います。

【森脇委員】

そういう戦略に乗って進めていこうということを書いてはどうですか。

【木ノ本委員】

甘利経済再生大臣が河内長野市で「やる」と、こういう田舎だからこそ活動してほしいと、はっきり言われていましたので、結果を出さなければいけないと思います。

【幸山委員】

地域経済産業の振興についてですが、河内長野市の産業振興ビジョンに「企業誘致推進」、「基本施策 10」に「企業誘致の推進、企業促進」と書いてありますが、私は、河内長野市に企業誘致が必要な施策なのかと思うのです。自然も、文化財もある所に企業誘致といっても、それぞれの企業は自分たちの論理を持っていて、行政側の論理とは違います。河内長野のような立地条件の所に企業が入り込むかどうかで、幾ら優遇措置があっても難しいと思います。もし、「産業の振興」とするのならば、時間はかかるけれども、農業や林業、観光業を地道に育て上げるほうが、河内長野市の将来にとってもいいのではないかと思います。世界はグローバル化していますし、今まで一流だった企業が一流ではなくなり、企業が消滅しているような時代に、中小企業で優秀な企業が来るかどうかです。

【森脇委員】

それは基盤整備を先にやらないと企業は来ないのではないかとということです。だから、テクノロジーパークは、何十年も前から高速道路が通ることを見据えてこういう工業団地を造ろうということで、できたときにはこんな大きな団地を造ってどこの企業が来るのかと思いましたが、かなり企業誘致されていますので、何十年単位のサイクルで受け皿を先に造っておかないと、産業振興はできないということではないですか。

【幸山委員】

時代背景が違うと思います。和泉市は、30～40年前からやっていて、今とスピードが違います。

【森脇委員】

それでも今になっても企業が来ているのです。

【木ノ本委員】

河内長野市の立地に合った形で、5人～10人でもきらりと光る個性を生かしたような方々が、こういう立地の中で、静かに自分のやりたいことができるというような、最小限度の地域の若い世代の皆さん方が入ってこられるような所が必要なのではないかとっているのです。だから、幹線道路も計画があるところはきちんと整備しながら、身の丈に合った形で、最低限度の整備が理想ではないかと思います。

【幸山委員】

確かに、日本のいろいろな企業も競争力がなくて、合併しないとやっていけないような時代なので、どういう企業を誘致するか、その企業の誘致の目的は、財政なのか、雇用なのか、若い人を呼び寄せるためかということを確認にしないと意味がありません。

【木ノ本委員】

やはり、若い世代の方に定住してもらうのが第1の目的だと思います。

【幸山委員】

ただ、企業は厳しいし、今はよくても、50年後は分かりません。

【加藤部会長】

できもしない企業誘致は書かなくてもいいのではないかというご意見ですか。

【幸山委員】

農業や林業などの資源を活用したほうが、河内長野らしいと思います。

【加藤部会長】

そこを強くうたって、もっととんがった施策にしてもいいと思います。

【松井委員】

健康サービスなどの健康分野はこれから広がる分野ですし、医療戦略で高齢者が元気でいられるまちと合わせて、民間の力をスマートエイジング・バレーという形で、健康づくり産業みたいなものとセットで取り組んでいこうという戦略の話が河内長野市にさせていただいています。「基本政策3」で、健康につながるようなまちづくりを入れるべきだし、「基本政策10」でサービス業に着目したほうが、狙い目としてはいいのではないかと思います。

【木ノ本委員】

スマートエイジングや医療も、充実させるチャンスだと思います。

【加藤部会長】

河内長野は、福祉や医療が充実しているまちでありたいということを書くのであれば、それを産業的に支えることを推進することが「潤い・快適・活力」のところで対応していると思います。だから、教育のことを前に書いて、それを支える教育産業というのが具体的に出てきていますので、単に書いてあるのではなく、このままいくときちんと実現できると得心したいのです。

【中林委員】

大学が来る、来ないといううわさを聞いていますが、来てもらう努力が足りないのではないかと思います。

【辻野部長】

認可の申請を平成27年3月に予定していたのがずれるということなので、来なくなったというわけではありません。

【中林委員】

そういううわさが出ていました。待っているだけではなくて、こちらから行動を起こすのも大事だと思います。

【辻野部長】

今、それに向けてやっています。

【中林委員】

いろいろと努力をすることが必要だと思います。

【奥野委員】

高野山の大学に河内材をふんだんに使っていただいて、河内林業のブランド化の普及をしたいと思います。また、保育園・幼稚園の公共建築物に河内材を使っていただいて普及していただくことに努めています。それと、第1次～第4次までの総合計画には「緑」が入っていましたが、今回は「自然」に変わっています。市民は、公園・森林を含めて緑の理解があると思いますので、ここに書かれている「環境美化」として、また、熱中症の予防の点からも、公園の緑に力を入れて、高木の緑影をつくることも入れたら「緑」が利いてくるのではないかと思います。

【加藤部会長】

農の拠点には河内材は使われていますか。

【奥野委員】

使っていただいています。市役所の中庭などにも河内材が入っていましたし、フォレスト三日市の2階のテラスや、河内長野駅前にも使っていただいています。

【辻野部長】

市役所の市民課前の腰板にも使っています。

【加藤部会長】

どんどん宣伝して、リフォームも河内材でやっていただけたらいいと思います。

【辻野部長】

くろまろの郷のビジターセンターにも河内材を使っています。

【加藤部会長】

「基本目標3」は文章が抽象的なので、具体的なイメージが湧くような、「農の拠点の6次産業化」ということをいうのは可能ですか。それとも、抽象的な方向で済ませたいのですか。

【小林課長】

基本構想なので、どこまで具体的に出すかというところがありますので、基本計画との関係を考えながら検討させていただきたいと思います。

【嘉名副部会長】

今の段階では、漏れがないかを押さえて、皆さんの意見は、めりはりを付けたほうが良いということなので、優先順位や見せ方は工夫していただきたいと思います。

【加藤部会長】

ビジョンを見せていただきましたが、前提になる情報共有があるとさらに突っ込んだ議論ができると思いました。部会はあと何回ありますか。

【緒方補佐】

部会はあと1回ですが、第1章～第6章までの文章化されたもの全体を通しての意見がメインになると思います。

【嘉名副部会長】

抜けている部分については押さえておく必要はあると思います。

【小林課長】

次回は、文章化したものを見ていただきたいと思います。

【加藤部会長】

分担を決めて議論していますが、実際には、教育や安全・安心、福祉のところも、産業の振興に密接に関連しているので、その関連のところはどこかで記述していただいて、潜在的ニーズや河内長野らしさを生かしたような、市民にとっても快適な生活であると、それを支える産業は、これをめりはりを付けて考えていくということとの関連を、ぜひ入れていただきたいと思います。

【嘉名副部会長】

30 ページの「基本戦略2」に「選択と集中」が書かれていますが、横串で刺さっているのは「基本施策11」だけしかありません。それぞれの話を聞くと、総合的に取り組むとか、相乗効果の高い

政策に集中すべきだというキーワードが出ていますが、それを縦割りの項目の中に埋め込むのは難しいので、横串で出ている「基本政策 11」にその話を入れるのか、実現方策のところでも頭出ししてもらおうくらいの感じで打ち出してもらおうという形になると思います。

【加藤部会長】

この部会だけでは決められないと思いますが、皆さんの意見がそこですから、他の部会の方にもそういうふうに言ったほうがいいかもしれません。

【木ノ本委員】

枝葉の部分ではなく、相乗効果の限定施策でないかと駄目です。

【加藤部会長】

第 6 章についてはあまりご議論いただいていませんので、ご意見がありましたらお願いします。

「分野横断的な施策の各部署間の連携」の仕組みはどんな形で担保されるのですか。

【小林課長】

所轄が担っているところもありますが、1つの部局で解決できることもないので、関連部局が集まって方策を考えながら、調整しながら進めていくことになります。

【加藤部会長】

定期的に会議を持つこともあるのですか。

【小林課長】

そういうこともありますし、一定期間プロジェクトチームを作ってやったり、いろいろな手法を使って縦割りにならないように進めたいと思います。

【加藤部会長】

言うのは簡単ですが、やるのは難しいと思います。

【松井委員】

計画と予算の連動は大変難しいと思いますが、河内長野市は、来年度の重点課題を決めて、それに重点配分する仕組みはあるのですか。

【小林課長】

実施計画の中で、施策に優先順位を付けながら、財政収支の財源を見ながら合わせていく作業をします。

【松井委員】

実施計画の中で項目を絞った形で出てきて、その実施計画のバックボーンが総合計画やアクションプランということですか。

【小林課長】

そうです。

【松井委員】

連動だけではなく、そういう仕組みも大事だと思います。

【小林課長】

第4次計画では評価が評価になっていないという意見を頂きましたので、外部も入れて、この総合計画自体の評価をきちんとしてほしいと思います。

【木ノ本委員】

第3次総合計画のときもそうでしたが、地域計画も立ててきちんとやったのに、どうやって評価するのだということでも地域計画がつぶれました。評価を気にすれば気にするほど目先のことになり、上げれば上げるほど実現性が難しくなります。実現できることはここに反映する必要はないので、その辺が難しいところです。評価に重点を置くのか、難しくても一歩を踏み出したことを評価するのか、その評価の視点もいろいろあると思いますが、今は、評価にエネルギーをかけ過ぎているのではないかと思います。

【小林課長】

基本計画が中心になりますが成果指標の目標値をどこに置くかという議論をして作らなければいけないと思いますし、それを中心に、数値化できる部分は、数値に対する達成度を評価し、全体として、外部からご意見を頂きながら評価するという2本立てになると思います。

【木ノ本委員】

評価をするのにもものすごくエネルギーがかかって、結果的に次の事業ができない状況になっているのではないかと思います。

【加藤部会長】

大学も同じで、細かいところまで評価しないといけないのですが、無駄なこともあると思います。市民の方が、「そんなことをするよりも、もっと実質的なことをやってほしい」と言ってくれたらいいと思います。

【木ノ本委員】

「見える化」と言われますが、パフォーマンスのように感じるので、ここにエネルギーと時間をかけるなら、やめたほうがいいと思います。

【加藤部会長】

その無駄な時間を成果指標のところにやる必要はないということですね。

【木ノ本委員】

一生懸命やっていたら結果が付いてくると思います。

【加藤部会長】

数値的評価以外のところは、なかなか評価できないので、全面的な評価にはならないと思います。

【嘉名副部会長】

仕組みとしては分かりますが、もう少し機動力やスピード感を入れてほしいと思います。どんどん細かくなって時間がかかって大変で、なかなか答えが返って来ないというのでは困ります。そして、大事だと思うことには素早く動いて、失敗したらすぐ引くみたいなことで。

【中林委員】

失敗はつきものです。

【加藤部会長】

行政は難しいと思いますが、ぜひ、失敗を許容できる仕組みにしていきたいと思います。

【木ノ本委員】

「見える化」と言われても、それを跳ね返すだけの迫力がほしいと思います。

【加藤部会長】

アンケートを採って評価しても、実態をつかんでいるかどうか分からないと思います。この委員の方は、それなりの想いを持っていて、計画がどのくらい実現されたかの関心も高いし、短期的に評価しようと思っていませんので、計画を作るだけではなく、途中の段階でも機能する評価システムもあるような気がします。

【渋谷委員】

P D C Aサイクルで一番大事なものは、民間でも「C」なのですが、評価方法の結論は出ません。

【木ノ本委員】

人によって評価が違うので、次のアクションを起こすときに、多方面で見ることができるのでいいと思います。達成の難易度によって、評価は変わってきます。

【森脇委員】

評価するためには、まず数値化して、期限を切ることが重要になりますが、この文章では、全く評価できないと感じます。

【加藤部会長】

それは、段階を踏んで、アクションプランでやっていただけたと思います。

【上野委員】

「1. 庁内における計画推進の体制」に「施策を担当する部署の責任の明確化」とありますが、責任を持つのは当たり前だと思います。どういうふうに分かりやすく書けばいいのかは分かりませんが。

【加藤部会長】

もう少し具体的に書かれた段階で、もう一度ご意見を頂くということにします。事務局、「その他」についてお願いします。

【緒方補佐】

今後の予定です。日程調整中ですが、1月末～2月初旬に次の部会をお願いしたいと思います。今回は、基本構想骨子案を文章化したものに対して、ご意見を頂きたいと思います。都市計画のイメージ図も、都市マスタープランとの調整を図りながらお示しして、トータルの案として作ったものについて、ご議論いただきたいと思います。今日もご意見を頂きましたが、まだご意見がありましたら、事務局に直接ご連絡いただきたいと思います。また、前回の全体会の議事録も来年早々に郵送させていただきますので、チェックをよろしく願いいたします。

【加藤部会長】

年末のお忙しいときに、どうもありがとうございました。